

弊社の取り組みについて、デーリー東北に掲載されました。

デーリー東北

2025年(令和7年)2月17日(月曜日)

Economic Monday サブチャンネル

青森つばめプロパン販売代表取締役 黒澤 周成氏

おもいをはこび、地域をつなぐ

「三河屋構想」で挑戦、変化し続ける



△戸市の青森つばめプロパン販売は、本業であるガス・燃料関連の業務をはじめ、天然水販売や日用品配達などを手がけ、十和田、久慈、三沢の各市、五戸町にも営業所を置いて事業を展開する。酒販店やしょうゆ製造販売会社などの企業の合併・吸収にも力を入れてきた。会社の現状や今後の経営方針などについて代表取締役の黒澤周成氏(52)に話を聞いた。(聞き手・水野大輔)

会社概要

1959年創業。本社は八戸市戸上・種田26の11。従業員数73人。ガス・灯油事業をはじめ、配達網を活かした多彩なサービスを展開。今年1月より「つばめアセット・アンド・マネジメント株式会社」を親会社としたホールディングス体制へ移行した。



略歴 くらさわ・しゅうせい 八戸市出身。大学卒業後、東京の石油メーカーに就職。約1年間の海外生活を経て、2000年青森つばめプロパン販売へ入社。総務部長を経て07年から現職。

事業所数が減少しており、生き残りが厳しい状況だ。一方、国の第7次エネルギー計画でLPG(液化石油ガス)が重要なエネルギーに位置付けられ、トランプ政権誕生で米国がLNG(液化天然ガス)輸出拡大を掲げるなど、明るいニュースもある。

「会社として力を入れていくことは、デジタル化や制度改革を通じて得られた時間とスキルで、新たな分野への挑戦を進めている。中期計画を「三河屋構想」と名付けて取り組んでいるが、その柱は「おもいをはこび、地域をつなぐ」ということだ。ガスや灯油、天然水、酒類、しょうゆといった「品物」を運ぶノウハウは地域の物流を担うことにもなる。近年進めてきた事業継承は、存続の危機にある小規模事業所をつなぐことであり、地域に大きな役割を果たせようと思う。

不動産賃貸部門は成長段階だが、単に家賃収入の面だけでなく、いかに三河屋構想とマッチングできるかを実証も行っている。

「働き方改革にも積極的に取り組んでいる。良いことは取り入れる。取り組んできたことも特徴といえるかもしれない。

「体最適」を目指している。ただ取り組むのではなく「品よき」やることも掛けていく。これまで実施したのはキヤッシュレス導入などの業務面、時差出勤などの制度面の改革。取り組みが社外にも伝わるようにしている。求人も順調に集まり、改革の効果を感じる。人的投資は重要であり、今後も教育、訓練に力を入れる。これまでの一連の取り組みは、コンサルティング業者に頼らず、時間はかかるが、自分たちで学び取り組んできたことも特徴といえるかもしれない。

「今後の方向性は。わが社は本業で培ったお客様との結びつきに大きな強みを持っている。従来の配達力やサービス力をさらに向上させ、得意とするデジタル化や業務最適化を駆使しながら、お客様や地域との関係をより密接にし、価値の高い商品やサービスを事業展開したい。積極的にグループや商品群の拡大を図り、より地域に役立つ事業体を構築していく。」

「この地域への思いは。八戸市の人口が近年、21万人台まで落ち込んでいることに驚いている。一方で世帯数の増加や高齢化率の上昇が見られることから、地元経済にどのような影響があるか今後注視し、細かなハンドリングを重ねなければいけないと考える。

民間企業として、そういった流れや社会の仕組みを変えることは大変難しいとは思いますが、この地域で60年以上育っていただいた会社として、微力でも皆さんの役に立てるようにしたい。

「三河屋構想」は単に物売りの活動ではなく、構想を通じて挑戦し、変化し続けることで地域に貢献できると信じ、まい進したい。